

アグリ | ワーク | ポイント



果樹林産センター 小柳博明

生育を助ける栽培管理をしましょう

3月は、気温の上昇と共に根の活動が活発化し、春芽が動き始めます。生育の手助けができるよう剪定や春肥の施用を行いましょう。

品種更新・改植

30年生を超えた老齢樹や高接後15年経過した樹は生産力が低下しているため、改植を進めて若返りを図りましょう。苗木は乾燥に弱いいため、根を乾かさないうちに注意し、植え付け後は充分なかん水を行いましょう。

剪定

近年、園地内でも樹ごとに着果のバラツキが増えています。同じ園地内でも樹の状態に応じた剪定を行いましょう。表年の樹は「早く強く」、裏年の樹には「遅く弱く」を基本に、先に表年が予想される樹を剪定するなど園地や樹ごとに優先順位をつけて、効率良く作業を進めましょう。剪定の目的は、作業性の向上や日照時間の確保、着果量の調整、均一な薬剤散布などです。この目的を念頭に置き鋏や鋸を入れましょう。

春肥

春肥は、新芽の充実や幼果の肥大に影響を与えます。通常は3月中旬が施肥の適期となります。早い時期だと根の養分吸収率が低いため流れてしまい、遅い時期だと新芽の充実や幼果の発育に養分が行き渡らず樹勢の低下を招いてしまいます。また、春草は除草し、施肥後の吸収効率を高めるために、中耕を行ってください。

3月中旬

- ・早生 柑配6号4袋/10aあたり
- ・青島 柑配4号5袋/10aあたり

病害虫防除

近年、台風の襲来により、かいよう病の発生が多く見られています。発芽前の防除が一番効果が高いので発病しやすい品種や園地では防除を行います。また、1月に機械油の散布を実施していない場合は、ICポルドー66Dと14日程度空けて、散布してください。

- ・かいよう病
- ICポルドー66D 60倍
- ・ミカンハダニ、カイガラムシ類
- マシン油乳剤(97%) 60倍